

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ペアやグループでの活動を通して、資料の読み取りを行うことで、意見の根拠となる部分に踏み込んで考えられる児童が増えた。
- ・社会科見学などの校外学習で、学習に関連する施設を実際に見たり聞いたりできる機会を積極的に設けた。そのことにより、実際に見て感じたことを、教室での学習に活かして考えることや、思考を深めることができる児童が増えた。

(2) 課題

- ・6年生の達成率が例年、全国平均を下回る。5年生の学習内容の定着がまだ不十分である。単元の導入や展開において、動画や写真などの視覚的な資料を積極的に用い、児童が少しでも身近に感じられるように資料の提示を行う。
- ・ペアやグループでの活動により、資料の読み取りに成長が見られる一方で、資料だけでは分からないことへの疑問や予想を立てる力が乏しい。考える視点を示し、資料からより深く考えさせるような支援をしていく。また、児童の疑問や知りたいことなどから学習問題を設定し、予想を立てさせていくことで、主体的に児童が学習活動に取り組めるように授業を構成し、社会的な見方・考え方を生かせるようにしていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	達成率は7割をやや下回っている。		
第5学年	達成率は7割をやや上回っている。	(第4学年時) 達成率は7割をやや上回っている。	
第6学年	達成率は7割を下回っている。	(第5学年時) 達成率は6割を下回っている。	(第4学年時) 達成率は7割をやや下回っている。

達成率とは、目標値※1以上の正答率※2だった児童の割合

(目標値以上の児童数÷受験者数×100(％))

例えば、達成率が7割ということは、目標値に達成した児童の割合が7割ということ。全体の児童が100人としたら、目標値に達しているのは70人で残りの30人は、前年度の基礎的な内容の定着に課題があることを示す。

※1 目標値とは、調査において前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される正答率の値

※2 正答率とは、出題数に対する正解した問題数の割合

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 正答率は目標値をやや下回っている。 ・ 工場や消防団の仕事についての選択問題で目標値を下回った。	・ どの問題も目標値を上回る正答率となっている。	・ 記述問題については無回答の児童が見られた。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 正答率は、第5学年は目標値をやや上回り、第6学年は下回った。 ・ 第5学年は「特色ある地域の様子」の読み取りの正答率が高い。 ・ 第6学年は、「国土の自然などの様子」の読み取りの正答率が低い。	・ 正答率は、目標値を上回っている。 ・ 第5学年は記述式の問題の正答率が低い。 ・ 第6学年は食糧生産の資料の読み取りの正答率が低い。	・ 記述式の問題の正答率が低い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 各单元の中で資料や写真から読み取ったことをペアやグループで共有し、日常生活の具体的な場面と結び付ける活動を取り入れる。 ・ 工場や消防団の仕事については、見学や資料から分かることを、図や言葉でまとめることで、知識として定着させる。	・ 根拠となる資料を明確にして、内容やその目的を友達同士で説明し合う活動を取り入れる。 ・ 導入の時間を工夫し、提示した資料から出た疑問や予想を基に学習計画を立てるようにする。 ・ 活動中には教師が問いかけを行い、事象や人々の相互関係に着目させ、自分の考えを深められる手立てを実施する。	・ 主体的な学習を展開できるように、見学の機会を増やす。また、動画の教材を使った学習を積極的に取り入れる。 ・ 疑問に思ったことを共有し、児童の興味関心が学びの中心となるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 教科書を見ても分からない言葉は、聞くだけでなく、自らタブレット端末を活用して調べられるようにする。 ・ 資料集を積極的に活用し、資料に触れる時間を増やす。 ・ 漠然とした事象だけでなく、身近な場面に置き換えて問題を提示することで、知識の定着を促す。	・ いろいろな事象を自分の積み重ねてきた知識や考えを基に、根拠をもって比較、分類できるようにする。 ・ 自身の考えを表現するだけでなく、友達と意見を共有する場を多く設けることで、多様な意見を基にして自身の考えを深められるようにする。 ・ 資料から読み取ったことを基に問題や課題を立て、予想するなど、自己の考えを形成する活動を多く取り入れる。	・ 教科書だけでなく資料集やタブレット端末も活用して調べられるようにする。 ・ クラス全員で单元の問題を共有して学習問題作りを行い、課題を自分事として捉えられるようにする。 ・ 体験的に学習を取り入れ、実物に触れる時間を設定する。